



講演会 日清食品ホールディングス 安藤様

令和6年度末に評議員選挙が定款に従い行われました。互選により理事・代表理事が選出され、理事長推薦理事の承認は6月7日(土)に開かれた社員総会で行われました。傾聴すべき意見は吉野 肇一元理事長からのものでした。卒後50年以上会員からの理事選出枠が3名と少なく高齢化社会となつた現状にそぐわないとの意見であった。80歳以上の会員は年会費免除されています。また卒後50年以上で80歳未満の会員は年会費を收めているにも関わらず理事枠が少なくなる

点は会員相互の公平性に照らして一考に値すると受け止めています。令和7年10月定期理事会において検討し改善案を次年度社員総会に提起するとしました。全員集会では恒例に従つて刀林会および教室の年間報告、令和6年度財務諸表、刀林賞論文一覧、学会支援募金趣意書・予算書の説明が行われました。

恒例の講演は日清食品ホーリデイングスCEOの安藤宏基様にお願いしました。講演はいきなり「Are you hungry?」と1992年のコマーシャルアニメ

から始まりました。氏曰く、「商品名を挙げないコマーシャルでした」カンヌで開かれた広告関係の国際的集まりでグランプリを獲得しましたと、CMは評判を呼んでシリーズ化され、マンモス以外の原始哺乳類も登場し、原始人の命を懸けた闘いが1995年までオンエアされました。消費者向けのコマーシャルも時代に合わせて変つてくのであると、日清のどん兵衛CM「二軍どん兵衛どんかぶり」吉高由里子・板垣李光人などを例に挙げてZ世代にささるCMアニメを次々と提示しながら、「最近も若い担当者のCM提案をCEOとして見るのだがよく分からなくなつた」とコメントされたときは、静かな笑いが会場を満たした。国内向け商品ばかりでなく、販路を世界に広げていくプロセスや戦略についてもお話をされましたが、宗教や嗜好が異なる商圏では商品の味について土着の人たちに受け入れてもらうべく緻密な戦略を立

令和7年度刀林会 全員集会開催にあたつて



理事長
東京医療センター
名譽院長
松本 純夫 (52回)



題字 故前田和三郎名誉教授
発行所
東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 松本純夫

令和7年度 刀林会全員集会を終えて



慶應義塾大学医学部
外科学 (心臓血管)
木村 成卓 (79回)

安藤CEOは2024年度大学学部卒業式の塾員代表祝辞を述べられています。三つの言葉「Hungry to win」、「勝利へのこだわり」、「勝つまでやめない執念」、「Crazy makes the future」、クレイジーな人こそが未来を創つていく。「組織に必要なのは忠誠心ではなく、正義感」の報告もなされました。

続きまして「各委員会報告」、「刀林賞表彰」、「会計報告」、「新人紹介」が例年通り行われました。「刀林賞表彰」、「新人紹介」が例年通り行われました。「刀林賞表彰」では刀林賞(水野翔大君(94回)及び刀林奨励賞(齊藤慶幸君(89回)、竹村裕介君(91回))の「受賞報告」が行われました。三

年後の安藤宏基CEOからのメッセージは会員諸君に届きました。安藤百福翁の名前を冠した研究所が創設されると、安藤百福翁の名前を記し御礼の言葉としました。

医学部に60億円の寄付を下さり、安藤百福翁の名前を冠した研究所が創設されました。その後松本理事長より

「書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。懇親会のエールにより恒例の「若き血」を全員で齊唱し、会場は一体感に包まれました。

最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をい

ただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

普段医療を行う上であまり接することのない、一流企

業におけるマーケティング、

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しして、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会全員集会が開催されました。今年も非常に多くの先生方に参加していただき、第でした。

盛大な会となりました。全員集会では、まず初めに松本純夫理事長及び外科教室主任の志水秀行教授から「年間報告」が例年通り行われました。また本年度は乳腺外科の設立、理事長の瑞宝中綬章授章、北川雄光教授の慶應義塾副学長就任という慶事が続き、そ

の報告もなされました。

今年は、田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これか

り設立された乳腺外科の林

の報告もなされました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

度は、日清食品ホールディン

グスCEOであり慶應義塾の大先輩である安藤宏基

様より、「日清食品のマーケ

ティング戦略とフードテックの未来」というタイトル

でご講演をいただきました。

また、大変

賑やかに盛り

上がりまし

た。会の途中

では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理

事長へ叙勲祝いの花束贈呈

が行われました。

懇親会の締めには岡田純一君(99回)が行されました。

次に講演会に移り、本年

承認可決した。なお、被選任者両名は席上就任を承諾した。	監事 山田好則、木村成卓
刀林賞選考委員会島津元秀委員長より、候補論文7編の中から、2月の刀林賞選考委員会において厳正なる審査の結果、以下3名が選ばれたことが説明された。	刀林賞 水野翔大君(94回) 齋藤慶幸君(87回) 竹村裕介君(91回)

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、午後2時30分閉会を宣した。	刀林賞選考委員会島津元秀委員長より、候補論文7編の中から、2月の刀林賞選考委員会において厳正なる審査の結果、以下3名が選ばれたことが説明された。
議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、午後2時30分閉会を宣した。	議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、午後2時30分閉会を宣した。

議長がその賛否を議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	刀林奨励賞 水野翔大君(94回) 齋藤慶幸君(87回) 竹村裕介君(91回)
議長がその賛否を議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	刀林奨励賞 水野翔大君(94回) 齋藤慶幸君(87回) 竹村裕介君(91回)

議長がその賛否を議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	刀林奨励賞 水野翔大君(94回) 齋藤慶幸君(87回) 竹村裕介君(91回)
議長がその賛否を議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	刀林奨励賞 水野翔大君(94回) 齋藤慶幸君(87回) 竹村裕介君(91回)

議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件
議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件

議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件
議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件

議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件
議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件

議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件
議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件

議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件
議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件

議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件
議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮つたところ、満場一致で承認された。	第5号議案 学会支援募金 承認の件

吉田昌(69回相)	季シンボジウム会長 清本康史(66回)	新入会希望者 尤礼佳(済生会中央病院)
(同窓会係)	(顧問弁護士) 堀健太郎(税理士) 岡田泰(事務局)	(顧問弁護士) 堀健太郎(税理士) 岡田泰(事務局)
山田洋平(81)	加勢田馨(86)	相(86)
相(86)	相(86)	相(86)
相(86)	相(86)	相(86)

1. 財務委員会 財務委員長(小澤壯治、60回)より資料1に基づき、今年度会費収入に関して報告があつた。予算600万を超える6,738,000円の収入があつた。会費納入率は約66%である。	2. 学会支援募金委員会委員長(木村成卓、79回)より、令和6年度学会支援募金 第27回 Needlesopic Surgery Meeting(浦上秀次郎会長、73回)、第97回本胃癌学会総会(宇山一朗会長、64回相)は学会が終了したことが報告された。第62回日本小児外科学会(浮山越史会長、65回)、第84回日本脳神経外科学会(戸田正博会長、66回)、第51回日本臓器保存生物医学会(河地茂行会長、68回)は、募金継続中であることが報告された(資料2)。
配布資料	配布資料

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2. 令和6年学会支援募金一覧	2. 令和6年学会支援募金一覧
3. 『刀林』125号掲載案	3. 『刀林』125号掲載案
4. 6月7日(土)スケジュール	4. 6月7日(土)スケジュール
5. 第53回日本潰瘍学会	5. 第53回日本潰瘍学会
6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム	6. 第42回日本小児外科学会秋季シンボジウム
7. 刀林賞・刀林奨励賞	7. 刀林賞・刀林奨励賞
追加資料一覧	追加資料一覧
2. 選挙管理委員会委員一覧	2. 選挙管理委員会委員一覧

1. 財務委員会報告	1. 財務委員会報告
2	

令和6年度収支計算書総括表				
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)				
科 目	合計	一般会計	刀林基金	備考
I 収入の部				
①事業収入				
学会支援募金収入	5,790,000	5,790,000	0	
②会費収入	7,904,000	7,904,000	0	
③広告収入	300,000	300,000	0	
④受取利息	9,142	3,663	5,479	
⑤寄付金収入	20,000	20,000	0	
⑥雑収入	30,416	30,416	0	
当期収入合計(A)	14,053,558	14,048,079	5,479	
前期繰越収支差額	18,674,003	7,329,648	11,344,355	
収入合計(B)	32,727,561	21,377,727	11,349,834	
II 支出の部				
1. 事 業 費				
①「刀林」発行費	933,195	933,195	0	
②総会補助	1,244,648	1,244,648	0	
③刀林賞賞金	700,000	0	700,000	
④学会支援寄付金	2,765,000	2,765,000	0	
事業費計	5,642,843	4,942,843	700,000	
2. 管 理 費				
①人件費	2,530,692	2,530,692	0	
②通信連絡費	303,960	303,960	0	
③印刷発送費	334,564	334,564	0	
④会合費	135,263	135,263	0	
⑤慶弔費	300,110	300,110	0	
⑥運営管理費	1,363,450	1,363,450	0	
⑦雑費	373,953	373,953	0	
管理費計	5,341,992	5,341,992	0	
当期支出合計(C)	10,984,835	10,284,835	700,000	
当期収支差額(A)-(C)	3,068,723	3,763,244	△ 694,521	
次期繰越収支差額(B)-(C)	21,742,726	11,092,892	10,649,834	

令和6年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

会計監査報告

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

令和6年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

収支決算報告書、財産目録に記載された内容及び金額は記載の通り相違ありま

せん。

令和7年5月14日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

監事 熊井浩一郎

監事 尾原泰明

新理事会構成員

多摩丘陵病院
理事長 院長

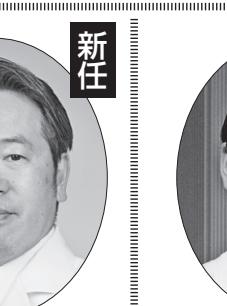
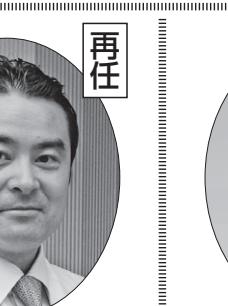
那須赤十字病院

多摩丘陵病院
名誉院長慶應義塾大学医学部
外科学 (心臓血管) 教授

こぶし会会長

東京医療センター名誉院長
理事長東京歯科大学市川総合病院
院長 脳神経外科特任教授

菅 貞郎

東海大学医学部
心臓血管外科教授
長 泰則 (69回)慶應義塾大学医学部
脳神経外科学教授慶應義塾大学
副学長 常任理事
医学部外科学 (一般・消化器)
教授馬車道慶友クリニック
院長稻城市立病院
院長慶應義塾大学医学部
外科学 (乳腺) 教授
林田 哲 (77回)国立成育医療研究センター
外科診療部長慶應義塾大学医学部
外科学 (小児) 教授川崎市立川崎病院
乳腺外科部長慶應義塾大学医学部
外科学 (一般・消化器)
岡林 剛史 (79回)川崎市立川崎病院
外科学 (一般・消化器)
蝶川 和也 (92回)慶應義塾大学医学部
外科学 (一般・消化器)
松田 諭 (87回)慶應義塾大学医学部
外科学 (呼吸器) 教授慶應義塾大学医学部
外科学 (一般・消化器)
朝倉 啓介 (81回)このたび刀林会の理事に
推薦いただきました。全て
の世代の先生方にとってよ
り大切な組織となるように
活動していきたいと思いま
す。温かいご指導、ご協力
をお願い申し上げます。この度刀林会理事を務め
させていただることになり
ました、92回の蝶川和也と
申します。歴史と伝統のあ
る刀林会のさらなる発展の
ために貢献できますよう精
進して参ります。ご指導ご
鞭撻の程、何卒よろしくお
願い致します。



木村 成卓 (79回)
新任

この度、山田好則先生とともに刀林会監事に就任いたしました。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひいたします。

慶應義塾大学医学部外科学(心臓血管)
木村 成卓 (79回)



山田 好則 (53回)
新任

刀林会には長く一会員として所属しておりました。この度、理事会監事を拝命いたしました。名譽なことではあります、同時に責任を重く感じているところです。本会が適切に運営され、これまで以上に発展できるよう努めて参ります。

この度、山田好則先生とともに刀林会監事に就任いたしました。

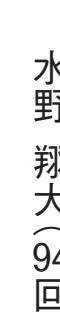


川本 潤一郎 (98回)
新任



慶應義塾大学医学部外科学(一般・消化器)川本潤一郎 (98回)
新任

この度、理事に就任致しました外科学(一般・消化器)、98回の川本潤一郎と申します。歴史ある刀林会の理事を拝命し、非常に身の引き締まる思いで御座います。至らぬ点も多々あるかと存じますが、精一杯職務を全う致しますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。



水野 翔大 (94回)
新任

この度、刀林会の理事を務めさせて頂きます94回生の水野翔大です。伝統ある刀林会に少しでも貢献できるよう努力してまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申上げます。

理事長重任に当たつて



理事長
東京医療センター
名譽院長
松本 純夫
(52回)

2019年故北島政樹理事長の急逝を受けて副理事長から理事長へ就任してから、2025年度総会で3期目6年が過ぎた。就任早々の2020年から2024年はCovid-19の大流行のため対面方式の会合が制限されたのは想定外であつた。そのため北川雄光教授主宰の日本外科学会術集会を始めとして、教室創立100周年行事や刀林会全員集会もWebで開くことを余儀なくされた。しかし悪いことばかりではなく、インターネット技術の進歩普及はWeb会議を当たり前のものにした。若手医師は学会に参加したくて開催地に行けない現実があつたが、すき間時間に参加できる良い社会変革になります。本会が適切に運営され、これまで以上に発展できるよう努めて参ります。

刀林会には長く一会員として所属しておりました。この度、理事会監事を拝命いたしました。名譽なことではあります、同時に責任を重く感じているところです。本会が適切に運営され、これまで以上に発展できるよう努めて参ります。

2025年春に瑞宝中授あつた。そのため北川雄光教授が理事に就任してくれたことには感謝しています。

2025年春に瑞宝中授



この度、慶應義塾大学医学部外科学(心臓血管)の木村成卓と申します。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひいたします。

この度、山田好則先生とともに刀林会監事に就任いたしました。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひいたします。

この度、慶應義塾大学医学部外科学(心臓血管)の木村成卓と申します。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひいたします。

この度、山田好則先生とともに刀林会監事に就任いたしました。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひいたします。

この度、慶應義塾大学医学部外科学(心臓血管)の木村成卓と申します。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひいたします。

この度、令和7年4月29日発令で瑞宝中綬章の授章が決まり、5月28日に厚生労働省の伝達式および皇居での天皇陛下拝謁の儀式に出席しました。授与基準は公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要なと認められることが組織の活性化には大事と信じている方なので、代表理事もこの際に次の方に交代しようと考えるに至り、春の理事会前に心境を新たに先生方のお名前を紹介して拙文をまとめたいと

この度、令和7年4月29日発令で瑞宝中綬章の授章が決まり、5月28日に厚生労働省の伝達式および皇居での天皇陛下拝謁の儀式に出席しました。授与基準は公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要なと認められることが組織の活性化には大事と信じている方なので、代表理事もこの際に次の方に交代しようと考えるに至り、春の理事会前に心境を新たに先生方のお名前を紹介して拙文をまとめたいと

この度、令和7年4月29日発令で瑞宝中綬章の授章が決まり、5月28日に厚生労働省の伝達式および皇居での天皇陛下拝謁の儀式に出席しました。授与基準は公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要なと認められることが組織の活性化には大事と信じている方なので、代表理事もこの際に次の方に交代しようと考えるに至り、春の理事会前に心境を新たに先生方のお名前を紹介して拙文をまとめたいと

この度、令和7年4月29日発令で瑞宝中綬章の授章が決まり、5月28日に厚生労働省の伝達式および皇居での天皇陛下拝謁の儀式に出席しました。授与基準は公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要なと認められることが組織の活性化には大事と信じている方なので、代表理事もこの際に次の方に交代しようと考えるに至り、春の理事会前に心境を新たに先生方のお名前を紹介して拙文をまとめたいと

理事長
東京医療センター
名譽院長
松本 純夫
(52回)

この度、令和7年4月29日発令で瑞宝中綬章の授章が決まり、5月28日に厚生労働省の伝達式および皇居での天皇陛下拝謁の儀式に出席しました。授与基準は公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要なと認められることが組織の活性化には大事と信じている方なので、代表理事もこの際に次の方に交代しようと考えるに至り、春の理事会前に心境を新たに先生方のお名前を紹介して拙文をまとめたいと

副学長・常任理事を拝命して



慶應義塾大學医学部
外科学（一般・消化器）教授

2025年5月 医療分野を統括する慶應義塾副学長および2期目の常任理事を拝命致しました。これまで様々のご支援をくださいました刀林会会員の皆様をはじめとするすべての慶應義塾社中の皆様に感謝の意を表したく存じます。私が担当する医療の分野は慶應に限らず日本全体の傾向ではありますが、大変厳しい状況に直面しております。本塾は最先端の医看薬学の発展に貢献しながら、慶應義塾大学病院において高度で安全な医療を提供しつつ、未来型予防医療や臨床研究推進など独自の分野を展開して経営面においても堅調な運営をしてきましたが、今後の動向は決して楽観できません。慶應義塾全体の事業規模の約半分を占める医療財政の安定的成長は、慶應義塾の恒常的な発展においても不可欠です。医学部においては、理工学部、Bio2Q や全塾的なプロジェクト

クトである地域中核・特色のある研究大学強化促進事業J-PEAKSをはじめとする大型研究活動を推進しながら、医療系三学部合同教育を含む全人的教育体制の充実が図られてきました。これだけ厳しい医療環境の中で、学術的実績を挙げながら医学部・病院とともに邁進4年間連続黒字決算を達成できましたのは、天谷雅行 前常任理事、金井隆典 前医学部長、松本守雄 前病院長をはじめ、医学部・病院執行部 信濃町教職員すべての皆様のご尽力の賜物であり、何より教育・研究の皆様の功績です。これらは若手・中堅教職員の労働改善と同時に医療DXを駆使した労働環境の整備に注力して参ります。急速な人口減少の中で、中長期的には医療需要が減少していくことが予想される中、さざまな新規プロジェクトに取り組みながら「慶應の医療圈」を世界へと広げて

参りたいと存じます。近年、研究力低下が課題となつて、本邦において、研究者や若手医療者が学術研究、診療能力の向上、慶應義塾ならではの異分野との交流などに安心して没頭できる環境、多彩なキャリアパスを構築し、大学およびその関連施設に優秀な人材が自ら望んで集結する体制を築きたいと考えています。新しい時代に求められる真の幸福のあり方、身体的な健康だけでなく精神的、社会的なウェルビーイングとは何かを見極め、AI技術が浸透した新しい社会を先導するため医療・理工系に留まらず慶應義塾が誇る人文科学・社会科学系の叡智を結集し、持続可能な「慶應義塾のグランドデザイン」を皆様とともに描いて参りますので、引き続きご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

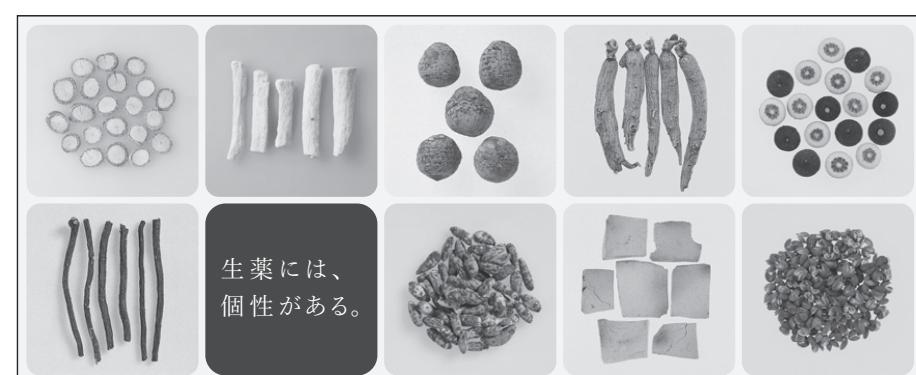
2025年4月1日付で
杏林大学医学部呼吸器・甲
状腺外科の臨床教授・診療
初期臨床研修を経て外科学
教室に入局し、小林紘一先
生（46回）のご指導のもと、
呼吸器外科の門を叩きました。
その後、野守裕明先生
（58回）のもとで専修医とし
て薰陶を受け、専修医課程
を修了した時点でカナダ・
トロント大学にリサーキュ
フェローとして留学いたし
ました。研究フェローを2
年間行つた後、同大学で臨
床フェローとして2年間一
般胸部外科を、さらに1年
間肺移植およびECMOを
学びました。帰国後は慶應
義塾大学で助教を務めたの
ち、足利赤十字病院、がん
研有明病院を経て、202
3年より杏林大学に赴任し
ております。

このたび、現病院長で呼
吸器外科教授の近藤晴彦先
生（東京大学出身）、ならび
に甲状腺外科教授の平野浩
一先生（63回・形成外科）の

後任として、2025年4月より現職を拝命いたしました。杏林大学病院には、前理事長の松田博青先生（39回）をはじめ、現医学部長の平形明人先生（61回・眼科学）、乳腺外科学教授の井本滋先生（64回）、小児外科学教授の浮山越史先生（65回）など、多くの刀林会および三四会の先輩方が活躍されてこられました。私がこのような重責を担う機会を得られたのも、慶應の先輩方が長年にわたり大学に貢献され、築かれてきた信頼の賜物と深く感謝申し上げます。偉大なる諸先輩方に心より敬意を表するとともに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

インター・ベンションにも取り組んでおります。研究面では、A-Iを活用した診断支援、ロボット手術の適応拡大に関する臨床研究、そして気道手術トレーニング機器の医工連携を推進しております。

呼吸器外科領域では現在、母校の朝倉啓介先生(81回)、東京歯科大学市川総合病院の江口圭介先生(69回)、埼玉医科大学総合医療センターの河野光智先生(72回)と儀賀理暁先生(72回)、東京慈恵会医科大学の大塚崇先生(75回)、埼玉医科大学国際医療センターノの菱田智之先生(77回相当)が教授としてご活躍中です。今後は諸先生方と連携しながら、慶應のプレゼンスをさらにお申し上げます。



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



東京歯科大学副学長を退任して

副学長退任

期を終えました。2008年に東歯大市川総合病院外科第六代教授に就任し、2013年から副病院長、2019年から大学副学長、法人常務理事を務めました。東歯大出身や歯学関係以外の副学長は私が初めてでした。が素晴らしい仲間と教職員の温かい支援のお蔭様で本当に楽しく思いつ切り勤めることができました。在職中には、東北大震災や新型コロナ禍といった災厄もありましたが、全教職員一丸となって果敢な努力で乗り越えることができ、その他多くのことを成し遂げることができました。

大学副学長として携わった最大の仕事は慶應との合併協議でした。それは、2018年1年間の外科手術千件達成の記念祝賀会を2019年1月に開催した前後から始まりました。当時の井出理事長・学長が私一人をこつそり何回か呼んで、

語り、私もその基にある信念を理解し（たつもりになり…）、私学第1位慶應義塾と歯学第1位東歯大の合併であれば $1+1$ を 2 以上にできる大きなポテンシャルが生まれると考え（てしまい…）ました。当時慶應義塾の北川病院長、竹内常任理事、天谷医学部長には大変お世話になりました。この場を借りて心よりお礼を申し上げます。当時の長谷山塾長との面会が叶い、三田での何回もの協議を経て長谷山塾長はじめ慶應義塾理事会、評議員会の承認が得られ2023年の統合を目指す「基本合意書」が2021年1月締結されたのでした。しかし、同年5月慶應義塾塾長が伊藤塾長に交代されて統合スケジュールを一旦見直すこととなり、この統合協議の道筋が決まらないまま私の任期を迎えた次第です。



松井淳一(58回)

引き払つて6月から済生会宇都宮病院で篠崎病院長の下でアドバイザリースタッフとして勤務しております。そこに7月19日朝早く北川慶應義塾副学長から私の携帯電話に電話があり「前日、国際医療福祉大学高木理事長から『市川総合病院が東歯大から国福大に譲渡される』と話があつたが、松井はご存じであつたのか?」とのことでした。私には全く寝耳に水であり、5月までの東歯大在職中には全くそのような情報を探らされていなかつたことをお話ししました。と言うより、井出理事長が私を含めて慶應側に悟られないように秘密裏に市川総合病院の切り離し譲渡を進めたものであり、から唐突に明かされたものでした。伊藤塾長や北川副学長はじめ慶應側に大変無礼千万な所業と言つざるを

の Prof. Susan Volk、日本創傷治癒学会から東京大学の仲上豪二朗教授、東北大学の菅野恵美教授を招き、皮膚潰瘍創傷治癒の最新知見と皮膚細菌叢や細菌の影響について検討する予定です。また、来年は、ハンガリー系カナダ人である Hans Selye がストレス学説を提唱して 90 周年であります。Hans Selye の愛弟子である、私の米国留学先の Prof. Sandor Szabo (ハンガリー人) を招待し、“Stress is 9 years old” と題した特別講演も企画いたしました。また、近年、外科病棟に入院した潰瘍穿孔例で死亡例が時々ありました。そこで、主題セッションとして「外科病棟の胃・十二指腸潰瘍症例の実情」を設けることとしました。刀林会から馬総合病院の栗原直人先生、そして慈恵会医科大学から高橋直人先生に座長をお願いしましたところ、集まつた 9 項のなかから 8 室



吉田 昌（69回相）

日本潰瘍学会では、長い歴史の中で、外科・内科・基礎医学のメンバーが徹底的に学術討論を行う場として発展してまいりました。この伝統を次の世代に引き継げるよう準備を進めてまいり所存です。本学会に御指導・ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

A black and white photograph capturing a panoramic view of Mount Fuji. The mountain, with its iconic conical shape and snow-capped peak, stands prominently on the right side of the frame. Its reflection is clearly visible in the calm waters of Lake Kawaguchi in the foreground. To the left, a forested hillside rises, and a small building is nestled among the trees at the base of the hill. The sky above is filled with soft, wispy clouds, and the overall scene is one of tranquility and natural beauty.

第97回日本胃癌学会総会



藤田医科大学
先端口ボット内視鏡手術学講座
主任教授

第99回日本胃癌学会総会を、2025年3月12日から14日にかけまして名古屋コンベンションホールにて主催する貴重な機会を賜りました。本学会は、我が国の胃癌診療に携わる多くの先生方が一堂に会し、知の交流と発展を図る重要な学術集会であり、その総会をお引き受けするにあたり、自身の引き締まる思いとともに、名古屋から新たな学術潮流を発信したいという決意を強くいたしました。メインテーマを「胃癌学におけるデジタルイノベーション」といたしましたのは、近年著しい発展を遂げるAIやロボット支援手術、画像解析技術、デジタルデータの活用が、胃癌診療の質向上に極めて大きな可能性を秘めていると考えたためでございます。これらの技術革新を臨床、研究、教育の場にどのように取り入れ、未来の胃癌学へつなげていくべきかを、国内外の専門家の先生方と深く議論できる場とすることを目指し、準備を進めてまいりました。

総会には2000名を超える多数の先生方にご参加いただき、応募演題数も900題近くに達しました。会場では、AI活用による診断精度の向上に関する最新報告、ロボティクスの進化を踏まえた手術戦略、さらにはデジタルテクノロジーを用いた教育の新たな試みなど、多岐にわたるご発表が寄せられ、会期を通じて大変活発な議論が交わされました。また、故北島政樹先生が創設された日本ハンガリーポーランド外科学会を、国際医療福祉大学の吉田昌先生のご尽力により同時開催することができ、多くの海外の外科医の先生方にもご参加いただきましたことは、本総会に国際的な広がりを与え、大変意義深い出来事でございました。日本の胃癌診療の現状と進歩を世界へ発信する貴重な機会となり、主催者として喜びに堪えません。

さらに、今回の総会の運営にあたりましては、同門会である刀林会の諸先輩方が、より、寛大なるご厚志を賜

りました。昨今、寄付金を募ることが極めて難しい情勢にござります中、このようないいご支援は、学会運営の大きな支えとなり、会場設営やプログラム構成の充実にも大きく寄与いたしました。刀林会からのご援助がなければ実現し得なかつた取り組みも多く、ここに改めまして深甚なる感謝を申し上げます。

本総会を通じて得られました成果を励みとし、今後も微力ながら胃癌学の発展に寄与すべく、臨床・研究・教育のいずれの領域におきましても、より一層精進してまいる所存でござります。何卒今後とも、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう心よりお願ひ申し上げます。

らの技術革新を臨床、研究、教育の場にどのように取り入れ、未来の胃癌学へつなげていくべきかを、国内外の専門家の先生方と深く議論できる場とすることを目指し、準備を進めてまいりました。

さらに、今回の総会の運営にあたりましては、同門会である刀林会の諸先輩方より、寛大なるご厚志を賜

診療の現状と進歩を世界へ発信する貴重な機会となり、主催者として喜びに堪えません。

お引き受けするにあたり、身の引き締まる思いとともに、名古屋から新たな学術的潮流を発信したいという決意を強くいたしました。メインテーマを「胃癌学におけるデジタルイノベーション」といたしましたのは、近年著しい発展を遂げるAIやロボット支援手術、画像解析技術、データの活用が、胃癌診療の質向上に極めて大きな決意を強くいたしました。また、故北島政樹先生が創設された日本ハンガリーポーランド外科学会を、国際医療福祉大学の吉田昌先生のご尽力により同時開催することができ、多くの海外の先生方にご参考いただきましたことは、本総会に国際的な広がりを与えることを目的としていたのです。

第97回日本胃癌学会総会 収支報告書

2025年10月3日

		実数(最終)				
項目		単価	数量	単位	金額	
I	参加費収入		2056	名	¥38,332,000	
1	学会参加費(会員)	15,000	1,230	名	18,450,000	
2	学会参加費(非会員)	25,000	577	名	14,425,000	
3	海外参加者(早期)	25,000	96	名	2,400,000	
3	海外参加者(通常)	30,000	92	名	2,760,000	
4	メディカルスタッフ	5,000	30	名	150,000	
5	研修医	5,000	27	名	135,000	
6	学生	3,000	4	名	12,000	
II	懇親会参加料		130	名	¥650,000	
1	拡大代議員懇親会	5,000	130	名	¥650,000	
III	単位手数料			名	¥0	
IV	抄録集販売		0	冊	¥0	
V	共催セミナー			18	枠	¥44,550,000
1	モーニングセミナーA(※最大2枠)	1,870,000	1	枠	1,870,000	
2	モーニングセミナーB(※最大6枠)	1,650,000	2	枠	3,300,000	
3	ランチョンセミナーA(※最大2枠)	2,750,000	2	枠	5,500,000	
4	ランチョンセミナーB(※最大6枠)	2,420,000	6	枠	14,520,000	
5	ランチョンセミナーC(※最大6枠)			枠	0	
6	イブニングセミナーA(※最大2枠)	2,420,000	0	枠	0	
7	イブニングセミナーB(※最大4枠)	2,200,000	4	枠	8,800,000	
8	スポンサードシンポジウムA(※最大2枠)	3,520,000	3	枠	10,560,000	
9	スポンサードシンポジウムB(※最大1枠)	2,750,000	0	枠	0	
10	スポンサードシンポジウムB(特別料金)			枠	0	
VI	展示出展料			13	社	¥30,019,000
1	基礎小間出展料	330,000	4	小間	1,320,000	
2	スペース小間出展料	275,000		小間	0	
3	書籍出展料	16,500	6	本	99,000	
4	ホスピタリティルーム(大)※最大3枠	3,850,000	4	枠	15,400,000	
5	ホスピタリティルーム(小)※最大1枠	3,300,000	0	枠	0	
6	ホスピタリティスペース※最大2枠	3,300,000	4	枠	13,200,000	
7	ホスピタリティスペース2	-	-	-	-	
8	ホスピタリティスペース3	-	-	-	-	
9	ホスピタリティスペース4	-	-	-	-	
VII	広告関係費			3	社	¥770,000
1	幕間広告	330,000	1	社	330,000	
2	アブリバナー広告	220,000	1	社	220,000	
3	HPバナー広告	220,000	1	社	220,000	
VIII	寄附・助成金					¥12,150,000
1	学会本部からの運営補助金	8,500,000	1	式	8,500,000	
2	寄付	1,650,000	1	式	1,650,000	
3	その他寄付・助成	2,000,000	1	式	2,000,000	
IX	その他					¥445,724
1	関連会合会場費	399,025	1	式	399,025	
2	利息	46,699	1	式	46,699	
	合計					¥126,916,724

■支出(別添明細)				
項目		主催者経費	JCS御見積	合計
I	事前準備費	¥1,852,522	¥29,950,686	¥31,803,208
1	事務局人件費	0	9,867,000	9,867,000
2	事務局雜費	0	334,675	334,675
3	接遇業務費	0	2,691,040	2,691,040
4	企業協賛活動業務費	0	1,769,020	1,769,020
5	広報・涉外業務費	0	54,450	54,450
6	制作費	768,950	7,091,535	7,860,485
7	サイドイベント業務費	6,700	820,380	827,080
8	プログラム編成業務費	0	4,242,865	4,242,865
9	事前登録業務費	1,076,872	3,037,826	4,114,698
10	郵送費	0	41,895	41,895
II	当日運営費	¥25,822,948	¥62,614,231	¥88,437,179
1	会場関係費	18,144,957	0	18,144,957
2	招請者関係費	0	17,908,266	17,908,266
3	飲食・会合・行催事関係費	7,149,864	519,900	7,669,764
4	輸送・ツアーリレーション費	155,520	0	155,520
5	映像機材費	0	30,056,521	30,056,521
6	看板・ポスター・バネル関係施工費	0	4,815,074	4,815,074
7	展示会場関係費	0	672,760	672,760
8	設営・撤去(看板・ポスター・バネル・展示)	0	1,089,000	1,089,000
9	運搬関係(看板・ポスター・バネル・展示)	0	774,400	774,400
10	参加受付自動機利用経費	0	0	0
11	運営要員関係費	0	4,752,275	4,752,275
12	記録関係費	372,607	580,800	953,407
13	同時通訳関係費	0	0	0
14	諸雑費	0	1,445,235	1,445,235
III	事後処理費	¥5,927,237	¥749,100	¥6,676,337
1	事務局人件費	0	616,000	616,000
2	旅費交通費	0	0	0
3	会議費	683,809	0	683,809
4	制作費	0	0	0
5	会計監査費用	3,500,000	133,100	3,633,100
6	その他	1,743,428	0	1,743,428
	合計	¥20,600,767	¥62,614,231	¥183,214,998

予備費（実数との差額）	¥-0
-------------	-----

第62回日本小児外科学会学術集会

杏林大学医学部
小児外科教授

浮山 越史 (65回)



このたび、第62回日本小児外科学会学術集会を2025年6月5日(木)から7日(土)にかけて、東京都千代田区一ツ橋の一橋大学一橋講堂にて開催いたします。杏林大学小児外科は1994年に講座として発足し、30周年を迎えております。当教室にとつては初めて

日本小児外科学会学術集会の開催は、刀林会会員では第17回秋山洋先生、第22回勝俣慶三先生、第38回佐伯守洋先生、第41回今村洋二先生、第44回森川康英先生、第49回上野滋先生、第58回黒田達夫先生に次いで、今回で8人目になります。

今回のテーマは「天に星、地に花、人に愛」とさせていただきました。この言葉は杏林大学の近くに邸宅跡の公園・記念館がある、武者小路実篤が色紙に揮毫していたものです。『愛』は医療の根幹であり、病気の子どもたちにとって最も必要なものと考えています。副

議員…66回の古川俊治先生、国際医療福祉大学学長／WHO執行理事…63回の鈴木康裕先生、慶應義塾大学医学部外科学教授…65回の北川雄光先生、日本医師会常任理事…65回の黒瀬巖先生、日本小児科学会理事…岡明先生、アステラス製薬株式会社代表取

約1,000名の皆さまにご参加いただき、各会場とも大変盛況で活気に満ちた学術集会となりました。素々お詫び申し上げます。誠にありがとうございました。

題として「さみの想いをこめて」を胸に小児外科医療に臨んでいただきたいとの願いを込めました。特別講演は日本の医界で著名な先生がたに「これから医学と小児外科」に関してご講演いたします。

城綾香さんにご登壇いただき、ドラマ「PICU」小児集中治療室の作成過程についてお話しいただきました。締役会長・安川健司様です。また、文化公演としてフジテレビのプロデューサー金

受賞報告



熊本大学大学院生命科学研究部
小児外科学・移植外科学講座
教授

日比 泰造 (77回)

2025年国際肝移植学会賞 (臨床研究部門)を受賞

2025年5月、シンガポールで開催された国際肝移植学会(IITS: International Liver Transplantation Society)総会において学会賞(臨床研究部門)を受賞する栄誉「20世紀の医学的奇跡のひとつ」と称されます。IL

T Sの歴史は1984年に遡り、世界で初めて肝移植を成功させた臓器移植の父・Thomas E. Starzl博士が関連多職種と共に手術・周術期管理を議論する場として立ち上げ、現在は肝移植に関する基礎と臨床全般

熊本大学大学院生命科学研究部
小児外科学・移植外科学講座
教授

2025年5月、シンガポールで開催された国際肝移植学会(IITS: International Liver Transplantation Society)総会において学会賞(臨床研究部門)を受賞する栄誉「20世紀の医学的奇跡のひとつ」と称されます。IL

大の学会として知られています。また、横須賀米海軍病院インター・中央病院でレジデント・チーフとして肝胆膵領域を中心に腫瘍外科を5年間にわたり学びました。2006年より大学に戻り故北島先生、そして北川雄光教授のご高配で一般・消化器外科の胆道班・移植班(当時)に配属していただき、これが私が肝移植の出会いとなりました。島津元秀先生、若林剛先生、田邊稔先生、河地茂行先生、尾原秀明先生、そして小児外科の森川康英先生、星野健先生をはじめとする綺羅星のごとく並ぶ先生方より生体肝移植の手ほどきを受けた日々が鮮やかに脳裏に甦ります。初めて担当したレジエントが移植後早期グラフト肝不全に陥り、脳死下へ、腫瘍学と移植医学の融合: transplant oncology

と称されます。IL

2025年5月、シンガポールで開催された国際肝移植学会(IITS: International Liver Transplantation Society)総会において学会賞(臨床研究部門)を受賞する栄誉「20世紀の医学的奇跡のひとつ」と称されます。IL

2025年5月、シンガポールで開催された国際肝移植学会(IITS: International Liver Transplantation Society)総会において学会賞(臨床研究部門)を受賞する栄誉「20世紀の医学的奇跡のひとつ」と称されます。IL

2025年5月、シンガ

国際肝臓外科学会 (ILLS) 2025 Best Video Award 受賞報告



上尾中央総合病院
若林 大雅 (91回相)

第97回日本胃癌学会総会 優秀演題賞



慶應義塾大学医学部
外科学 (一般・消化器)
池田 勝平 (98回相)

このたび、ソウルで開催された第5回 International Laparoscopic Liver Society (ILS) World Congressにおいて、私が発表した手術「Precision Robotic Glissonean Approach for High-Branching G8 Pedicles in HCC」が Best Video Award を受賞いたしました。多数の応募ビデオの中から Best Video Presenter 8名に選出され、さらに上位2名に残り、最終的に最高賞を頂くことができました。

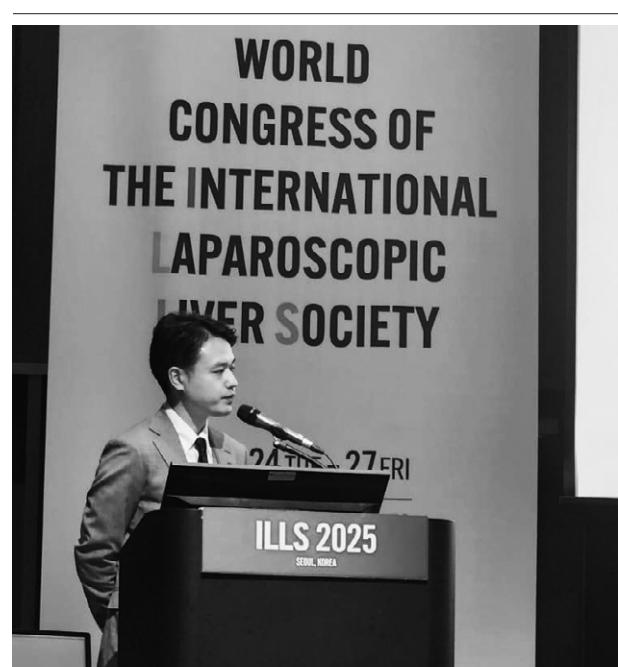
ILS は低侵襲肝切除の国際的発展を牽引する学会であり、今回の第5回大会では第4回国際低侵襲肝切除コンセンサス会議が併催されました。世界56か国から667名が参加し、179の招待講演と247の一般演題が行われ、低侵襲肝切除、特に近年発展の著しいロボット肝切除の標準化と将来像について活発な議論が交わされました。昨年は京都で Single Topic Conference が開催されており、私は第1回大会から継続して参加してまいりました。

から667名が参加し、179の招待講演と247の一般演題が行われ、低侵襲肝切除、特に近年発展の著しいロボット肝切除の標準化と将来像について活発な議論が交わされました。昨年は京都で Single Topic Conference が開催されており、私は第1回大会から継続して参加してまいりました。世界56か国から667名が参加し、179の招待講演と247の一般演題が行われ、低侵襲肝切除、特に近年発展の著しいロボット肝切除の標準化と将来像について活発な議論が交わされました。昨年は京都で Single Topic Conference が開催されており、私は第1回大会から継続して参加してまいりました。

一方で、留学先の IRCAD France (ストラスブール) では、解剖学的知見や手術アプローチ、研究成果を映像と合わせて論理的に発信する姿勢を学びました。

慶應肝胆脾外科のカンファレンスや指導医から教わったCTの見方、手術スケッチを通じて醸成されたものと考えています。

一方で、留学先の IRCAD France (ストラスブール) では、解剖学的知見や手術アプローチ、研究成果を映像と合わせて論理的に発信する姿勢を学びました。



2025年3月12日から14日にかけて愛知県名古屋市で開催された第97回日本胃癌学会総会において、「ロボット支援胃切除術におけるAI自動解剖認識モデルの構築」に関して発表し、

優秀演題賞を受賞いたしました。

本研究では、AIによる解剖認識サポートにより術中映像を活用し、深層学習を用いて重要臓器脾臓、横行結腸間膜、右胃大網静脈などを自動認識するAIモデルを構築・検証しました。

胃切除術 (robotic distal gastrectomy : RDG) における幽門下リンパ節郭清の精度を高めることを目的としています。

AIモデルの IoU (Intersection over Union) とこの AI model の推論する臓器の領域と実際の領域がどれだけ重なるかを示す指標で評価しました。

作成したAIモデルの IoU は右胃大網静脈 0.575、脾臓 0.624、横行結腸間膜 0.618 であり、既報では IoU 0.5 ほどで臨床医が有用と判断したという報告がある中、非常に高い精度が示されました。

この IoU は 0.5 から 0.7 までの差もわずかであることから、AI 自動解剖認識モデルの構築に着手を

しました。ロボット支援脾臓など) を自動認識するAIモデルを構築・検証しました。

この IoU は 0.5 から 0.7 までの差もわずかであることから、AI 自動解剖認識モデルの構築に着手を

法によって切除範囲を可視化し、血流支配に沿った精緻な解剖学的切除を行いました。この成果は Annals of Surgical Oncology にビデオ論文としても掲載されました。

現在、私は上尾中央総合病院にて日々臨床に携わっております。一例一例の手術に向き合う中で、一子相伝の手技の習得はいうまでもありませんが、術前に解剖やアプローチを丁寧に考える時間を何より大切にしています。その姿勢は、

慶應肝胆脾外科のカンファレンスや指導医から教わったCTの見方、手術スケッチを通じて醸成されたものと考えています。

一方で、留学先の IRCAD France (ストラスブール) では、解剖学的知見や手術アプローチ、研究成果を映像と合わせて論理的に発信する姿勢を学びました。

今回の受賞は、そうしたこれまでの解剖学的知識の醸成と、学術的な伝え方に

対する積み重ねが評価されました。この結果だと感じています。

これまでご指導くださった北川雄光教授、阿部雄太先生、若林剛先生はじめ、慶應肝胆脾・移植班の

先生方に心より感謝申し上げます。

今後も、日本の精緻な解剖理解と手術手技を分かりやすい形として国内外に発信し、低侵襲外科のさらなる発展に尽力してまいりたいと思います。

病院紹介

上尾中央総合病院での 10年を振り返って



左から私、岡本先生、大雅先生、中尾先生、高橋先生、石井先生

院で勤務を始めてから10年が経ちました。渡邊昌彦教授(58回)からの紹介を受け、中村康彦理事長、徳永英吉院長のもと、当院にて地域医療のさらなる発展と外科医療の質向上に尽力してまいりました。

数11日平均1500人の大病院です。赴任時に院長から私は与えられたタスクは、「外科医療の質を高め、職員が安心して手術を受けられる環境を作ること」でした。当時は北里大学からの派遣医師と当院採用医師が混在した自由な外科チーム体制でしたが、その中で、北里大学の筒井敦子先生（平成14年卒）を下部消化管のチーフに、北川雄光教授（65回）ご厚意により岡本信彦先生（76回）を上部消化管のチーフに迎え、チーム体制を整えました。



院長補佐・肝胆脾疾患
先進治療センター長・
外科科長

若林剛（61回）

特に脛脛脛口ボット手術件数は、2017年2月にロボット支援下脾頭十二指腸切除を開始して以来、この10月までに308例（肝臓128例、脾臓180例）になりました。

当院での10年間で発表された私の名前が入った英文論文は147本あり、そのうち私が最終著者として当院から報告された英文論文が35本あります。これは国内・国外留学生14人の協力もありますが、肝胆膵外科に限らず、上部消化管、下部消化管、ヘルニアなど多岐にわたるエビデンスを生み出してきました。

と慶應義塾大学から定期的に修練医を派遣いただき、これまでに高度技能専門医を4人と技術認定医を7人育てることができました。年々、手術症例数は増加して来ており、2024年度は上部62例、下部186例、肝胆脾104例、ヘルニア修復術287例、胆囊摘出253例、虫垂切除21例、肺切除93例、穿孔性腹膜炎手術50例、合計156例であり、うち87%にあたる1003例は低侵襲手術でした。故大上正裕先生(58回)にラバコレンを

相当、医長)、中尾篤志先生(95回)、
春かららは当院初期研修医の
石井賢武先生(長崎大学3年卒)
024年卒)が呼吸器外科
に入局する予定です。これ
までも子島大輝先生(99回)
相当)、高橋優太先生、中原
英里先生(102回相当)と
当院の初期研修医卒業生が
刀林会に入会いただいて
ります。慶應義塾大学関連
病院としても、また刀林会
の出張病院としても、当院
の豊富な症例数を活かして

病院は、千葉県柏の葉キヤンパスに位置しております。つくばエクスプレス（T-X）で秋葉原から約30分、東京都心からも通勤圏内にあるこの地域は、大学や研究機関が集まる学術都市として発展を続けています。当院はその一角にあり、駅からやや離れた静かな環境（バスで約10分）にあります。周囲には緑が多く、カワセミが姿を見せることがある稳やかな場所です。

射線治療、化学療法、緩和ケア、看護、リハビリテーションなど、多職種が連携して患者一人ひとりに最適な治療を提供するチーム医療も当院の大きな特徴です。さらに、臨床研究や治験を推進する体制も整っております。研究成果を迅速に臨床に還元する「トランスレーショナルリサーチ」の拠点としての役割も担っております。

近年では、国内外の医療機関や大学との連携を強化しており、欧米やアジアを中心とする国際共同研究をはじめとする国際化を進めております。

教育交流も活発に展開しております。特にがんゲノム医学連携プラットフォーム「SCRUM-Japan(スクランジヤパン)」の中核施設として、多様ながん種を対象とした臨床研究を推進しております。外科領域では、在外施設との技術交流や術式標準化にも取り組み、内視鏡・ロボット手術の教育拠点として発展を続けております。また、院内では若手医師の臨床・研究能力を充実させ、次世代のがん専門医養成に相応

成はも力を注いでおりました。当院には大西達也(82回)、由良昌大(89回)、綿貫瑠璃奈(92回)、辻貴之(95回)、古迫理彩(101回相当)の5名の刀林会所属医師が在籍しております。それぞれの専門分野で臨床・教育・研究に携わっております。慶應東病院の理念である「がんに外科で培われた経験を基礎に、医療の革新」に寄与しつつ、日々の診療と後進育成にあたっております。



国立がん研究センター東病院



大西 達也 (82回)

令和6年度「刀林賞」選考結果報告



刀林賞選考委員会 参加者
医療法人社団幸隆会
多摩丘陵病院 院長
島津 一元秀 (53回)

刀林賞を受賞しました



荻窪病院
水野 翔大 (94回)

令和6年度刀林賞には私が選考委員長を拝命した令和元年以来最多の7篇の論文の応募がありました。今回刀林賞選考委員会は令和7年2月27日にweb形式で開催し、事前に委員全員から詳細な査読評価を頂き、その集計結果を基に審議を行いました。

いずれの論文も優秀で選考に苦慮しましたが、最高評価点を得た水野翔大君(94回)の論文「Stratification of Stage II colon cancer using Recurrence Prediction Value: A Multi-national retrospective study」(Annals of Surgery 2024掲載)が刀林賞候補として挙がりました。第2著者として「contributed equally to this study」と評価があり、貢献度を差し引いて評価する必要があるのではという意見も出されました。応募規則にはその点の記載はなく、最終的に全会一致で刀林賞に推薦されました。本論文は慶應義塾大学共同研究で作成したpStage II

Prediction Value(RPV)の妥当性を海外施設のvalidation dataを用いて検証し、従来のガイドラインに比べてより正確に再発リスクの高い患者を抽出でき、補助化学療法の適応選択にも有用なバイオマーカーになりうることを示し、臨床的に極めて意義のある研究であると評価されました。

刀林奨励賞についてはいずれも質の高い論文が多い中、慎重審議の結果、斎藤慶幸君(89回)と竹村裕介君(91回)の2論文が推薦されました。

斎藤論文「Lobectomy vs Total Thyroidectomy with Ipsilateral Lateral Neck Dissection for N1b Intermediate-Risk Papillary Thyroid Carcinoma」(JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgery 2024掲載)は側頸部リンパ節転移(CN1b)を伴う中間リスク乳頭状甲状腺癌の術式について、甲状腺全摘と葉切除術を比較し、より低侵襲である葉切除が長期予後および再発に関する全摘と同等の治療効

果を提供する」とを示した

結果を提供する」とを示した

最終的に承認されました。

この度は、刀林会刀林賞

という栄誉ある賞をいたしました。

日頃より御指導いただいて

おります北川雄光教授、岡

林剛史先生、本研究の御指

導を賜りました茂田浩平先

生およびデータ収集にご尽

力頂きました関連施設の先

生方に厚く御礼申し上げま

す。また、このよき歴史

ある賞に選出をいただきま

したこと、刀林会の先生方

に深く御礼申し上げます。

この度私が受賞いたしま

した論文は、腸班が中心と

なり、関連施設と協力して

作成した多施設共同データ

ベースを教師データとして

結腸癌pStage IIの各ハイ

リスク因子に重みづけをし

たRecurrence Prediction

Value(RPV)とこう予後予

測因子スコアを作成しまし

た。やいにやのスコアの妥

当性を米国Massachusetts

General Hospital 及びカル

ダ、King Hussein Cancer

Center サーティベースを検

証用データとして検討した

ものになります。教師デー

タにおいて2010年から

pStage II結腸癌の予後の層

別化において有効なバイオ

マーカーとなることを報告

いたしました。

ために、ハイリスク患者の

抽出の有用性としては疑問

の余地がありました。今回

ASCO、ESMO、NCCN

などの各ガイドラインでは

pStage II結腸癌において、

high群(n=175)に分けて

survival of pediatric

deceased donor liver

transplantation recipients

after introduction of the

pediatric prioritization

system: Analysis of data

from a Japanese national

survey」(Journal of Hepato-

Biliary-Pancreatic Sciences

2024掲載)は本邦における

小児脳死肝移植の全容を初

めて明らかにしただけでな

く、臓器提供数が極めて少

ない日本において、小児優

先制度が効果的に機能して

いる現状を示しました。筆

者らは本邦の脳死肝移植の

データベースを作成し、ド

ナーおよびレシピエントの

データを統一・可視化した

結果は極めて大きいと考え

られます。

今回の選考結果は令和7

年3月26日の理事会および

社員総会での決議を経て、

6月7日の令和6年度定時

選考結果報告

が実施されました。

この度は、刀林会刀林賞

を受けたpStage IIの患者

で補助化学療法を受けてい

ました。

RPV low群(n=564)と

high群(n=175)に分けて

RPVは無再発生存

期間(Recurrence free

survival: RFS)および全生

存期間(Overall survival: OS)の独立した予後予測因

子である」とがわかりまし

た(共にP<0.001)。これら

のRPVを教師データと

まとめた異なるデータで

る検証データに当てはめ、

2010年から2020年

の間に根治切除を受けた

pStage IIの患者で補助化学

療法を受けていない467

例を対象に、教師データと

同じカットオフ値よりRPV

low群(n=420)とhigh群

(n=47)に分けて検討しま

した。多変量解析の結果、

RPVはRFS、およびOSの

独立した予後予測因子であ

りました(共にP<0.001)。

以上のようRPVは国籍、

人種を問わず、全世界的に

優れていると言えます。

この度の受賞を励みとせ

せていただき、なお一層、臨

床および研究活動に精進し

て参ります。今後とも、指

導、鞭撻のほど何卒よろし

くお願い申し上げます。

この度の受賞を励みとせ

させていただき、なお一層、臨

床および研究活動に精進し

て参ります。今後とも、指

導、鞭撻のほど何卒よろし

くお願い申し上げます。

この度は、刀林会刀林賞

を受けたpStage IIの患者

で補助化学療法を受けてい

ました。

RPV low群(n=420)とhigh

群(n=47)に分けて検討しま

した。多変量解析の結果、

RPVはRFS、およびOSの

独立した予後予測因子であ

りました(共にP<0.001)。

以上のようRPVは国籍、

人種を問わず、全世界的に

優れていると言えます。

この度の受賞を励みとせ

させていただき、なお一層、臨

床および研究活動に精進し

て参ります。今後とも、指

導、鞭撻のほど何卒よろし

くお願い申し上げます。

この度は、刀林会刀林賞

を受けたpStage IIの患者

で補助化学療法を受けてい

ました。

RPV low群(n=420)とhigh

群(n=47)に分けて検討しま

した。多変量解析の結果、

RPVはRFS、およびOSの

独立した予後予測因子であ

りました(共にP<0.001)。

以上のようRPVは国籍、

人種を問わず、全世界的に

優れていると言えます。

この度の受賞を励みとせ

させていただき、なお一層、臨

床および研究活動に精進し

て参ります。今後とも、指

導、鞭撻のほど何卒よろし

くお願い申し上げます。

この度は、刀林会刀林賞

を受けたpStage IIの患者

で補助化学療法を受けてい

ました。

RPV low群(n=420)とhigh

群(n=47)に分けて検討しま

した。多変量解析の結果、

RPVはRFS、およびOSの

独立した予後予測因子であ

りました(共にP<0.001)。

以上のようRPVは国籍、

人種を問わず、全世界的に

優れて

刀林奨励賞を受賞して

刀林奨励賞を受賞して

このたびは栄誉ある刀林奨励賞を賜り、身に余る光榮に存じます。私は大学で一般・消化器外科の研鑽を積んだ後、チーフ出張を経て米国ボストンの甲状腺専門施設に留学し、現在は刀

林会のご縁をいただき、故伊藤國彦先生が院長を務められた伊藤病院で内分泌外科医として勤務しております。

大学時代には、解剖学的に甲状腺に近い食道手術にも甲状腺に近い食道手術（縮小手術）と葉切除

を中心、手技・術後管理・研究姿勢など多くを学びました。民間病院に移った後も、そこで培った「探究心」を大切にし、臨床の中で地道に研究を続けてまいりました。その積み重ねが今回

諸先生方に心より御礼申

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

今後も日本の質の高いデータを世界へ発信し、甲状腺・副甲状腺外科という分野の発展に貢献できるよう努力を続けてまいります。

甲狀腺・副甲状腺に関するお悩みのことがありまし

た、ぜひお声掛けください。

このたびの受賞は、支えて



伊藤病院
齋藤 慶幸 (89回)



伊藤病院
齋藤 慶幸 (89回)

このたびは栄誉ある刀林奨励賞を賜り、身に余る光榮に存じます。私は大学で一般・消化器外科の研鑽を積んだ後、チーフ出張を経て米国ボストンの甲状腺専門施設に留学し、現在は刀

林会のご縁をいただき、故伊藤國彦先生が院長を務められた伊藤病院で内分泌外科医として勤務しております。

大学時代には、解剖学的に甲状腺に近い食道手術にも甲状腺に近い食道手術（縮小手術）と葉切除

を中心、手技・術後管理・研究姿勢など多くを学びました。民間病院に移った後も、そこで培った「探究心」を大切にし、臨床の中で地道に研究を続けてまいりました。その積み重ねが今回

諸先生方に心より御礼申

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

今後も日本の質の高いデータを世界へ発信し、甲状腺・副甲状腺外科という分野の発展に貢献できるよう努力を続けてまいります。

甲狀腺・副甲状腺に関するお悩みのことがありまし

た、ぜひお声掛けください。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

とし、改訂に向けても学会から御

指名をいただき、引き続き尽力させていただいており

ます。

このたびの受賞は、支えて

ます。

上げます。

受賞対象となつた論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載となりました。これを契機に、伊藤病院では2025年1月より葉切除を基本

留学を終えて

静岡県立静岡がんセンター
小澤 広輝 (91回相)

私は2023年2月より約2年半、米国ボストンにあるDepartment of Medical Oncology, Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School, Kufe Labに留学いたしました。本研究室は、大阪大学・

九州大学外科より長年にわたり多くの留学生を受け入れており、今回、前東海大学医学部長・森正樹教授のご支援のもと、慶應義塾大学外科学教室から私の留学の機会をいただきました。

教授は、約40年前に乳がん腫瘍マーカーであるMUC1 (ムチン蛋白の一種)×CA 15-3を同定された研究者であり、以来MUC1との分子機構との関連を研究されています。80歳を超えた今も、毎週土曜日

にはポスト・Tatte Bakery にはボストンのパンとフルーツカッピングを行ながる行うラボニー・ティングを開催し、休日や夜間でも思いついたアイデアを次々とメールで送つてこられるなど、非常にエнерギッシュな姿勢に刺激を

受けました。Kufe教授から、「Chasing dream is fun. Keep discovering!」と言われ続けたことは強く心に残っています。妻と生後6か月の長男を連れての渡米は大きな挑戦でしたが、アメリカらしい季節行事(特に独立記念日、Halloween、Thanksgiving'Christmas)を楽ししながら、家族ともども充実した時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、留学に際しまして、高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、川久保博文先生、関連病院の先生方、ならびに刀林会の皆さんに心より御礼申し上げます。また、三橋記念国際交流基金留学助成をいただきましたことには、重ねて深く感謝申し上げます。

「多摩地域」と変換されました ～立川より

こぶし脳神経クリニック
松山 真千 (65回)

地域便り

1999年5月に米国留学から帰国し、国家公務員共済組合連合会立川病院(以下、立川病院)に着任しました。以来四半世紀を立川で働いております。同院を2003年春に退職し立川

市内の介護老人施設へ転職し、2008年に立川駅南口から徒歩5分の場所に、現在のこぶし脳神経クリニックを開業いたしました。

花が「こぶし」であることから命名しましたが、脳神経外科同窓会が「こぶし会」であることも無関係ではありません。ちなみにカラオ

ケで演歌を歌うことが時々あります。小節「こぶし」はあまりきかせません。

立川は多摩地域の中でも最も活気のある街のひとつであります。最近では立飛ホールディングスがホテル事業・商業

施設営業、文化・スポーツ(大相撲および各種スポーツ興行、プロバスケットボール運営など)に力を入れています。北口には広大な国営昭和記念公園もあり、ずっと住み続けたいと思っております。

市内の基幹病院としては、立川病院以外に災害医療センター、立川相互病院があり、やたらに川野病院、立川中央病院を加えた5病院がある上に、近隣には都立多摩総合医療センターおよび都立小児総合医療センター、王子病院、公立福生病院があり、病診連携は充実しております。

近隣の刀林会員の先生方には公私ともに大変お世話になります。「公」の部には公私ともに大変お世話になつております。「公」の部には公私ともに大変お世話になつております。20名となる盛況でした。しかし、10年間にわたり20回実施してきましたが、2020年からのコロナ禍の

やり繰りするため、教会での食料配給に並んだこと

であります。妻と生後6か月の長男を連れての渡米は大きな挑戦でしたが、アメリカらしい季節行事(特に独立記念日、Halloween、Thanksgiving'Christmas)を楽ししながら、家族ともども充実した時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、留学に際しまして、高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、川久保博文先生、関連病院の先生方、ならびに刀林会の皆さんに心より御礼申し上げます。また、三橋記念国際交流基金留学助成をいただきましたことには、重ねて深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、留学に際しまして、高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、川久保博文先生、関連病院の先生方、ならびに刀林会の皆さんに心より御礼申し上げます。また、三橋記念国際交流基金留学助成をいただきましたことには、重ねて深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、留学に際しまして、高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、川久保博文先生、関連病院の先生方、ならびに刀林会の皆さんに心より御礼申し上げます。また、三橋記念国際交流基金留学助成をいただきましたことには、重ねて深く感謝申し上げます。

2025年「恙無会」(つつがないかい、 旧食研外科研究室同窓会) 報告

はじめに
若い刀林会会員のために、
かつて存在した「食研外科
研究室」を短く紹介します。
外苑東通りに面した現在の
信濃町煉瓦館の場所に食養
研究所が1995年(平成
7年)まであり、その1階
(半地下とも言える)に食研
外科研究室がありました。
戦後間もない1956年
(昭和31年)に外科学教室で
最初の研究室として創設さ
れ、研究対象は胃、肝胆脾、
乳腺、感染症、化学療法、
消化管内視鏡などでした。
1973年(昭和48年)に
慶大外科の研究グループは
臓器別と機能別に改変され、
「食研外科研究室」は解散
しました。ですから同窓会
メンバーで最も若いのが46
回生です。毎年5月に「同
窓会・恙無会」を開催して
きました。

今年の「恙無会・昼食会」
は2025年5月23日、恒
例となつた新宿駅西口・京
王プラザホテル内の中華料
理店「南園」で、昨年より
2名少ない13名(会員7名、
会員夫人4名、研究室助手
2名)で、昨年より

上京できない
澤野芳郎(42回)亀背で
歩行障害となり、富山から
欠席と
古谷健二(42回)昨年ク
リニック閉院、残念ながら
上京できない
松岡宏彰(44回)診療所
が休めず、温泉、ドライブ
などご無沙汰

桑野研司(41回)昨年ク
良で欠席しますが、来年は
出席しますと
丸山圭一(41回)医療相
談をしています。スキーや
ドライブ旅行など

山本修三(38回)心不全
で自宅療養中
横山拓也(40回)体調不
良で欠席しますが、来年は
出席しますと
丸山圭一(41回)医療相
談をしています。スキーや
ドライブ旅行など

湯浅鎌介(35回)施設療
養中、幹事に元気と電話あ
り
榎本耕治(40回)所用と
重なり、残念ながら欠席と
山本修三(38回)心不全
で自宅療養中
横山拓也(40回)体調不
良で欠席しますが、来年は
出席しますと
桑野研司(41回)昨年ク
リニック閉院、残念ながら
上京できない
澤野芳郎(42回)亀背で
歩行障害となり、富山から
欠席と
古谷健二(42回)昨年ク
リニック閉院、残念ながら
上京できない
松岡宏彰(44回)診療所
が休めず、温泉、ドライブ
などご無沙汰

など2名)が参加し、丸山
幹事の司会で開催されました。この1年間に逝去され
た関根延式君(29回)、田中
建彦君(33回)へ黙祷が捧
げられました。参加者中、
最長者の大槻道夫君(32回)
の開会の乾杯に続き、庶務
報告・会計報告が行われま
した。欠席者の近況は次の
とおりです。

田中豊治(46回)週4日
病院勤務している。欠席し
ます
田中豊治(46回)週4日
続いて出席者から次のよ
うな近況報告がありました。
武石澄夫(展代30回と輝
夫31回との長男)父と母の
法要を営む、仕事順調
大槻道夫(32回)長野県
蓼科で開業、93歳になりま
すが頑張っています
船曳孝彦(40回)弁膜症
と間質性肺炎を克服し、登
山、ゴルフ、スキーを
リニック閉院、残念ながら
上京できない
澤野芳郎(42回)亀背で
歩行障害となり、富山から
欠席と
古谷健二(42回)昨年ク
リニック閉院、残念ながら
上京できない
松岡宏彰(44回)診療所
が休めず、温泉、ドライブ
などご無沙汰

幹事 丸山 圭一(41回)
担当 吉野 肇一(44回)

リニック閉院、登山ができ
ない、欠席
吉野肇一(44回)上板橋
め、岐阜県飛騨から上京で
きない

工藤学而(44回)膝を痛
た。この1年間に逝去され
た関根延式君(29回)、田中
建彦君(33回)へ黙祷が捧
げられました。参加者中、
最長者の大槻道夫君(32回)
の開会の乾杯に続き、庶務
報告・会計報告が行われま
した。欠席者の近況は次の
とおりです。

田中豊治(46回)週4日
続いて出席者から次のよ
うな近況報告がありました。
武石澄夫(展代30回と輝
夫31回との長男)父と母の
法要を営む、仕事順調
大槻道夫(32回)長野県
蓼科で開業、93歳になりま
すが頑張っています
船曳孝彦(40回)弁膜症
と間質性肺炎を克服し、登
山、ゴルフ、スキーを
リニック閉院、残念ながら
上京できない
澤野芳郎(42回)亀背で
歩行障害となり、富山から
欠席と
古谷健二(42回)昨年ク
リニック閉院、残念ながら
上京できない
松岡宏彰(44回)診療所
が休めず、温泉、ドライブ
などご無沙汰

22日(金)正午から、これま
でどおりの南園での再会を
約して散会した。二次会は
同ホテル内「樹林」で約2
時間、旧交を温めた。
(丸山・吉野)



前列左より、大槻由美子(大槻夫人)、丸山和紀子(丸山夫人)、鈴木保江(故鈴木卓二君夫人)、大槻道夫(32回)、船曳愛子(船曳夫人)、松岡滋美(松岡夫人)
後列左より、丸山圭一(41回)、松岡宏章(44回)、秋里和夫(44回)、船曳孝彦(41回)、本橋五十路、吉野肇一(44回)、武石澄夫(故武石夫妻長男)

帰室報告



慶應義塾大学医学部
外科学(一般・消化器)
石井 政嗣(87回相)

2025年10月から北川雄光教授のご高配により帰室致しました87回生相当、肝胆膵・移植班の石井政嗣と申します。

2008年に東京医科大学医学部を卒業し、川崎市立井田病院で初期臨床研修、外科学教室に入局し、専修医として川崎市立井田病院埼玉社会保険病院に勤めました。2012年に大学レジデントとして帰室し、肝胆膵・移植班に所属致しました。大学レジデントとして従事する一方でがんプロフェッショナルコースの大院に所属し、板野理先生にご指導頂き、肝線維化の臨床研究を進め、学位を取得しました。2016年からポストチーフとして伊勢フエッショナルコースの大院に所属し、板野理先生にご指導頂き、肝胆膵だけでなく一般・消化器外科として消化器全部の手術を担当し、数多くの手術を行いました。その後2018年より公立福生病院で手術を担当し、数多くの経験を積みました。2020年より熊本大学小児・移植外科で1年間、肝移植の手術に従事しました。熊本大

学では4例のドナー手術やレシピエントの胆管吻合を術者として行わせて頂き、大変貴重な経験となりました。2021年4月より栃木県立がんセンターで4年半、肝胆膵の高度技能手術に従事させて頂きました。大先輩である尾形佳郎先生に基礎的なことから再度みつちり教えて頂きました。高度技能医を受けるに当たり、候補になるビデオと一緒に全部見て下さり、一つ一つにコメントを頂きましたことは私の財産だと思い、肝胆膵外科医として成長することが出来ました。今回、三原規奨先生には手術の細かい戦略や考え方を教わり、肝胆膵外科医として成長することになりました。また、富川盛啓先生、伊勢フエッショナルコースの大院に所属し、板野理先生にご指導頂き、肝線維化の臨床研究を進め、学位を取得しました。2016年からポストチーフとして伊勢フエッショナルコースの大院に所属し、板野理先生にご指導頂き、肝胆膵だけでなく一般・消化器外科として消化器全部の手術を担当し、数多くの手術を行いました。その後2018年より公立福生病院で手術を担当し、数多くの経験を積みました。2020年より熊本大学小児・移植外科で1年間、肝移植の手術に従事しました。熊本大

学医学部を卒業後、済生会宇都宮病院にて2年間の初期臨床研修を行い、2012年より外科学教室に入局いたしました。その後、栃木医療センター、共済立川病院でのレジデント出張を経て、2014年に大学病院へ帰室し、肝胆膵・移植手術を学ぶとともに、板野理先生のご指導のもと、免疫不全ブタを用いた肝細胞癌ゼノグラフト作製実験にも取り組みました。2017年からは国際親善総合病院にポストチーフとして出張し、安藤暢敏先生、佐藤道夫先生、富田眞人先生、宮田量平先生のご高配のもと、肝胆膵・胃・大腸外科手術の研鑽を積み、腹腔鏡下肝切除術の導入に携わりました。2019年から赴任した上尾中央総合病院では、若林剛先生のご指導のもと、ロボット支援下臍頭十二指腸切除・臍切開・肝切除や、イメージガイド手術の標準化を推進しつつ、国内外の多施設との共同研究や若手外科医の教育にも継続的に取り組んでいます。今後は、慶應の伝統を継承しつつ、最先端技術認定医、ならびにロボット膵切除プロクター資格を取得致しました。

2022年9月からは、仏・IRCAD Franceにて2年間リサーチフェローとして在籍し、Jacques Marescaux教授のご指導のもと、ズタボット膵切除プロクター資格を取得致しました。

2022年9月からは、仏・IRCAD Franceにて2年間リサーチフェローとして在籍し、Jacques Marescaux教授のご指導のもと、ズタボット膵切除プロクター資格を取得致しました。

2022年より国際親善総合病院にて、肝胆膵・移植手術の有用性に関する研究に従事いたしました。また、鏡視下手術教育プログラムにおいては、世界各国から集う外科医への技術指導に携わりました。

この度、北川雄光先生のご高配を賜り、2025年10月より帰室をさせて頂きました。上部消化管班の松井一晃(93回生)と申します。私は栃木県での初期臨床研修を修了した後、2016年に母校である慶應義塾大学の外科学教室へ入局致しました。外科専修医として東京都済生会中央病院、東京歯科大学市川総合病院で研鑽を積ませて頂き、2018年にレジデントとして帰室すると同時に、大院(がんプロフェッショナル養成コース)への進学の機会を頂きました。

研究の分野では、特に食道癌領域において、術後早期の筋肉量減少と予後の関連、日常活動度が筋肉量変化に与える影響、PleSSision-Rapidを用いた網羅的遺伝子解析の現状と臨床応用の可能性、術前化療法中の5-FUの個体間変動、術後第1病日の疾培の予測因子、肺転移再発形式の臨床的特徴など、多角的な視点で研究に携わらせ、多くの先生方に心から温かい指導を賜り、これまで頂くことが出来ました。

論文報告をさせて頂くことが出来ました。また、大学院3年次には、食道癌・胃癌手術のハイボリュームセンターである埼玉医科大学国際医療センターに出向する機会を頂き、鏡視下手術の有用性、術前DCF療法中の筋肉量・栄養指標の評価など、継続的に論文報告が出来るよう努めて参りました。

この度帰室をさせて頂くに際して、非常に微力ではございますが、これまでの経験をしっかりと活かし、わずかでも外科学教室

の執刀の機会を頂くと同時に、膨大な患者数のデータベースを用いて、胃癌手術に関する複数の論文報告もさせて頂きました。

北川雄光先生、川久保博文先生、眞柳修平先生のご指導のもと、チーフレジデントとしての大学在任中に学位を取得させて頂きました。

北川雄光先生、川久保博文先生、眞柳修平先生のご指導のもと、チーフレジデントとしての大学在任中に学位を取得させて頂きました。

北川雄光先生、川久保博文先生、眞柳修平先生のご指導のもと、チーフレジデントとしての大学在任中に学位を取得させて頂きました。

北川雄光先生、川久保博文先生、眞柳修平先生のご指導のもと、チーフレジデントとしての大学在任中に学位を取得させて頂きました。

この度帰室をさせて頂くに際して、非常に微力ではございますが、これまでの経験をしっかりと活かし、わずかでも外科学教室

の執刀の機会を頂くと同時に、膨大な患者数のデータベースを用いて、胃癌手術に関する複数の論文報告も頂きました。

北川雄光先生、川久保博文先生、眞柳修平先生のご指導のもと、チーフレジデントとしての大学在任中に学位を取得させて頂きました。

北川雄光先生、川久保博文先生、眞柳修平先生のご指導のもと、チーフレジデントとしての大学在任中に学位を取得させて頂きました。

現在は、ロボット支援下臍頭十二指腸切除・肝切除や、イメージガイド手術の標準化を推進しつつ、国内外の多施設との共同研究や若手外科医の教育にも継続的に取り組んでいます。今後は、慶應の伝統を継承しつつ、最先端技術との融合を図り、外科

技術認定医、ならびにロボット膵切除プロクター資格を取得致しました。

2022年9月からは、仏・IRCAD Franceにて2年間リサーチフェローとして在籍し、Jacques Marescaux教授のご指導のもと、ズタボット膵切除プロクター資格を取得致しました。

2022年9月からは、仏・IRCAD Franceにて2年間リサーチフェローとして在籍し、Jacques Marescaux教授のご指導のもと、ズタボット膵切除プロクター資格を取得致しました。

現在は、ロボット支援下臍頭十二指腸切除・肝切除や、イメージガイド手術の標準化を推進しつつ、国内外の多施設との共同研究や若手外科医の教育にも継続的に取り組んでいます。今後は、慶應の伝統を継承しつつ、最先端技術との融合を図り、外科

技術認定医、ならびにロボット膵切除プロクター資格を

帰室報告

慶應義塾大学医学部
外科学(一般・消化器)
森本 洋輔(94回)

このたび、北川雄光教授のご高配により2025年10月1日より帰室させていたしました94回生上部消化管班の森本洋輔と申します。私は、2015年3月に慶應義塾大学医学部を卒業し、2年間静岡赤十字病院で初期臨床研修を行い、2017年4月に慶應義塾大学医学部外科学教室に入局致しました。D3出張..

日野市立病院、D4出張..伊勢原協同病院を経て、2019年4月より大学レジデントとして帰室し、上部消化管班に所属致しました。2020年4月より大学院(がんプロフェッショナルコース)へ進学し、2021年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科(胃外科)にて櫻本信一教授のご指導のもと、

022年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科(胃外科)にて櫻本信一教授のご指導のもと、

022年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科(胃外科)にて櫻本信一教授のご指導のもと、

022年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科(胃外科)にて櫻本信一教授のご指導のもと、

022年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科(胃外科)にて櫻本信一教授のご指導のもと、

022年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科(胃外科)にて櫻本信一教授のご指導のもと、

022年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科(胃外科)にて櫻本信一教授のご指導のもと、

慶應義塾大学医学部
外科学(呼吸器)
鈴木嵩弘(95回)

この度、朝倉啓介教授の

ご高配により、帰室させて

いたしました外科学(呼

吸器)95回生の鈴木嵩弘と

申します。私は2016年

に慶應義塾大学を卒業し、

この度、朝倉啓介教授の

ご高配により、帰室させて

いたしました外科学(呼

吸器)95回生の鈴木嵩弘と

申します。

山下 将太郎



出身高校..慶應義塾
出身大学..東北大学
部活動..ゴルフ部
研修を経て、この10月から
水戸赤十字病院での初期
修業を開始しました。山下将太郎と申
します。

出身高校..慶應義塾
出身大学..東北大学
部活動..ゴルフ部

多摩丘陵病院にて研鑽を積
ませていただいております。ま
だまだ未熟なところも多い
ですが、今後ともご指導ご
鞭撻のほどよろしくお願ひ
いたします。

松本 侑希保



出身高校..長野県松本
出身大学..深志高等学校
部活動..室内楽部

この度慶應義塾大学医学
部外科学教室に入室させて
いただきました。松本侑希
が申します。初期研修は
斗南病院にて修了し、慶應

この度慶應義塾大学医学
部外科学教室に入室させて
いただきました。松本侑希
が申します。初期研修は
斗南病院にて修了し、慶應

松本 駿



出身高校..立教新座高校
出身大学..国際医療福祉大
学部活動..ハンドボール部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入局いた
しました。松本駿と申しま
す。

初期研修は伊勢崎市民病
院にて修了し、現在は太田

黒田先生は、国内外の学
会・研究会にて皆を先導
し、組織を発展させてき
た。記録に残る功績はとて
も本紙面では記し尽くせな
い。早くに小児外科を志さ
れていた先生は、本学医学
部を卒業後、米国MGHへ
の研究留学を経て、国立小
児病院から国立成育医療研
究センターへ、そして慶應義
塾大学の小児外科のリード
ナーを務められた。常に日

本のトップランナーとして
小児外科診療において活躍
しながら、小児がん、先天
性囊胞性肺疾患、胆道閉鎖
症、鎖肛、肝血管腫と多く
の学術研究を先導し業績を
残された。その類い希な業
績とそして非の打ち所のな
い人格をもつて、日本小児
外科学会、日本周産期・新
生児医学会、日本小児血液
がん学会といつた小児外科
会においても、立派な人間
として、医師として小児
外科医として、そして師
としてあるべき一つの理想
の姿であった。いつもそつ
と身近におられた巨人を突
然失つてしまつたことはい
まだに信じ難く、淋しい。
しかし、先生が示し続けた
穏やかな光は、私達に深く
染み込んでいる。感謝の思
いは言葉に尽くせない。

「日本の小児外科」を示さ
れた。

先生の生き方は、立派な
人間として、医師として小
児外科医として、そして師
としてあるべき一つの理想
の姿であった。いつもそつ
と身近におられた巨人を突
然失つてしまつたことはい
まだに信じ難く、淋しい。
しかし、先生が示し続けた
穏やかな光は、私達に深く
染み込んでいる。感謝の思
いは言葉に尽くせない。

「黒田達夫先生、先生は

生の姿を私は決して忘れる
ことはない。私の様にお世
話になり感謝の念があふれ
る方はどれだけいるのであ
ろう。輝く後輩としての先
生を見守つておられた先輩
方、一緒に切磋琢磨された
先生方の悲しみはいかばか
りか。

ございました。先生の笑顔を
お眠りください。

堀内 悠生



出身高校..慶應義塾
出身大学..慶應義塾大学
部活動..サッカー部
修は平塚市民病院にて修了
し、慶應義塾大学での半年
間の研修ののち現在、川崎

この度外科学教室に入局
させていただきました、堀内
内悠生と申します。初期研
修は平塚市民病院にて修了
し、慶應義塾大学での半年
間の研修ののち現在、川崎

市立川崎病院で外科研修を
させていただいております。
諸先輩方から熱心なご指導
を賜り、大変充実した日々
を過ごすことができており
ます。何事にも全力で挑戦
して取り組んで参りますの
で、今後ともご指導ご鞭撻
の程よろしくお願ひ申し上
げます。

追悼記

黒田達夫先生を偲んで

慶應義塾大学医学部外科学(小児)教授
藤野 明浩(75回)

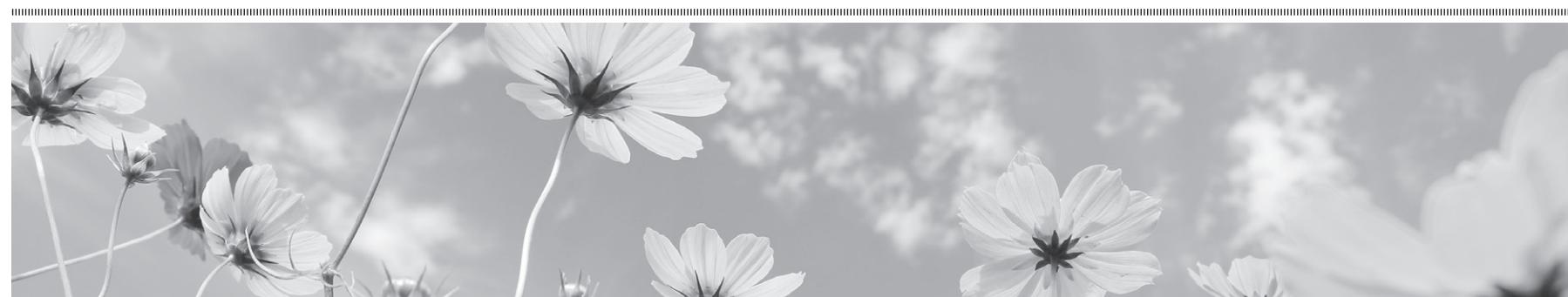


黒田達夫先生とアニー

多摩丘陵病院にて研鑽を積
ませていただいております。ま
だまだ未熟なところも多い
ですが、今後ともご指導ご
鞭撻のほどよろしくお願ひ
いたします。

日々充実した研修を積ませ
ていただいております。ま
だまだ未熟なところも多い
ですが、今後ともご指導ご
鞭撻のほどよろしくお願ひ
いたします。

多くの後輩、学生たちを
楽しそうに、分け隔てな
く、温かく導かれる黒田先
生でした。



山本修二先生を偲んで

山本先生は、昭和34年に本塾医学部を卒業後、外科学教室に入局、米国に研究員としてご留学ののちに、済生会神奈川県病院外科にご勤務されておりました。山本先生と私は（昭和43年6月9日）に、満90歳にてご逝去されました。

科学教室の助手を2年間務めた後、昭和53年に関連病院への「出張」の指示があり、第一に希望した病院が、山本先生が外科部長になられた済生会神奈川県病院でした。この病院を選んだのは、山本先生の手術が「神業」との噂があつたからです。

初めで口の先生と執刀の手術の助手として観た先生の手術は、それ以前に、慶應病院や外科の出張病院、或いは米国M.G.H.で観た手術とは全く違う、神業でした。当時の消化器外科の主な手術症例は、胃潰瘍、胃癌、大腸癌でしたが、病院が国道1号線沿いにあり、東名高速が開通したこともあつ

医を呼ぶことなく執刀医として手術を進められました。そして術後管理も厳しいもので、ご自分が執刀、或いは助手に入り指導した術後患者の回診は、土日や祝祭日も朝9時からあり、私と同期の茂木正壽先生とは山本先生の病棟回診に毎日付いて、所謂、「月月火水木

本先生は、多くの学術論を書かれた医学者でもあります。更に、山本先生はスポーツも万能で、特にスキーや指導員クラス。一度、苗にお供したことがあります。たが、先生はリフトを降ると、ゲレンデではなくて、リフトの鉄塔の下の

ました。私も、日本病院会に非常勤で勤務させていたとき、公務として、サウジアラビヤなどに出張の機会をいただきました。

神業の外科医、そして岱が国の病院事業に偉大な貢献をされた山本修三先生の、ご冥福をお祈り申し上げます。

慶應義塾大學名譽教授
相川 直樹 (47回)

大学名誉教授
田川 直樹
(7回)

7
回

「金金」の外科勤務でした。そのような「厳しい外科修業」の噂を聞いた、内藤秋さん（56回生、宇宙飛行士になられた「向井千秋さん」）が、外科研修2年を山本先生のもとで行い、と希望してきて、病院一室に泊まり込んで研修しました。

誰も滑つていな深い雪の急斜面を一気に滑り下りました。一緒にお供した、研修医2年内藤千秋さんも、山本先生の後に続いて滑り下りたので、ほかのキー キーヤーの注目の的となりました。

元理事長 山本修三先生の お別れの会を終えて

済生会神奈川県病院
院長
長島 敦 (64回相)

逝去された刀林会元理事長、山本修三先生（済生会神奈川県病院名譽院長）のお別れの会が横浜ベイホテル東急で参列者131名をお迎えしてしまやかに執り行われました。刀林会の皆様から多くの供花をいただき、華やかな葬儀となりました。ありがとうございました。

山本先生は刀林会元理事長・済生会神奈川県病院名譽院長だけでなく、日本病院会名譽会長・Medical Excellence JAPAN名譽理

会長であられるため、刀林
会理事長 松本 純夫先生、
日本病院会 会長 相澤孝夫
先生、Medical Excellence
JAPAN会長 渋谷 健司先生
と、済生会横浜市東部病院
院長の三角 隆彦先生に、済
生会神奈川県病院 現院長の
私を加えた5名及びご親族
が会の発起人となりました。

山本先生は昭和48年11月
に済生会神奈川県病院に外
科医長として赴任され、平
成2年6月からは院長とし
て平成14年3月に退任され
るまで、日本の胸腹部外傷

を中心とした救急医学の確立と発展に、多大な功績を残され、またその卓越した手術技術で多くの医師を育成されました。平成9年3月には済生会神奈川県病院院長のまま済生会神奈川県支部業務担当理事に就任し、横浜市東部地域中核病院として済生会横浜市東部病院の開設に尽力されました。平成16年4月からは日本病院会会長、平成19年6月から刀林会理事長を、平成25年4月からはMedical Excellence JAPAN理事長

山本先生からご指導いただきましたときの思い出を熱く語つていただきました。外科医は365日、24時間働くのが当然とされた時代で、臨床と学問の二刀流を情熱的に教えていただき、それがご自身の外科医としての土台だったと山本先生を偲ばれました。相澤先生は、日本病院団体協議会の設立、アジア病院連盟会長や国際病院連盟理事としての国際的な活動など、会長在任中の功績を紹介され、山本先生が会長を務めた6年間は



済生会神奈川県病院の夏の慰安旅行（1979年・熱海）
後列左から、山本修三先生、須藤政彦先生（30回）、前中由巳先生（36回）、
行岡哲男先生（東京医科大学、昭和43年卒） 前列左から、茂木正壽君（47回）、
向井千秋君（56回、旧姓内藤・後日の宇宙飛行士）筆者相川直樹（47回）

乳腺外科

診療体系グループ紹介



慶應義塾大学医学部
外科学(乳腺)教授
林田 哲(77回)

2025年4月、慶應義塾大学医学部外科学教室において乳腺外科が新たな診療科として設立され、これまで運営して参りました慶應病院ブレストセンターの中核を担う体制が整いました。林田哲(77回生)を診療部長として、高橋麻衣子(特79回生)・関朋子(85回生)・永山愛子(86回生)・横江隆道(88回生)の5名のスタッフに加え、大学院生を含む6名のレジデントが在籍し、外科治療および薬物療法を中心とした診療を多面的に展開しています。北川雄光教授のご指導のもと、これまで進められてきた診療クラスター再編を経て、形成外科・腫瘍センター・緩和医療センター・産婦人科・放射線科と連携した包括的な乳腺診療体制が確立されました。これにより、乳房再建術や若年性乳がん患者における妊婦性乳温存など、個々の患者の価値観に寄り添った医療提供が可能となっています。さ

らに、臨床遺伝学センターを中心として、HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術(RFA)を導入し、早期乳癌の一部に対しても低侵襲手術を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。

教育面では、高橋・関を中心とした教育を若手医師に受け、放射線診断科との合同カンファレンスにより画像診断能力の向上を図っています。研究活動では、永山・横江がセンターとして、慶應義塾大学医学部外科学(乳腺)教授として、HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術(RFA)を導入し、早期乳癌の一部に対しても低侵襲手術を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。

教育面では、高橋・関を中心とした教育を若手医師に受け、放射線診断科との合同カンファレンスにより画像診断能力の向上を図っています。研究活動では、永山・横江がセンターとして、慶應義塾大学医学部外科学(乳腺)教授として、HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術(RFA)を導入し、早期乳癌の一部に対しても低侵襲手術を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。

教育面では、高橋・関を中心とした教育を若手医師に受け、放射線診断科との合同カンファレンスにより画像診断能力の向上を図っています。研究活動では、永山・横江がセンターとして、慶應義塾大学医学部外科学(乳腺)教授として、HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術(RFA)を導入し、早期乳癌の一部に対しても低侵襲手術を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。

教育面では、高橋・関を中心とした教育を若手医師に受け、放射線診断科との合同カンファレンスにより画像診断能力の向上を図っています。研究活動では、永山・横江がセンターとして、慶應義塾大学医学部外科学(乳腺)教授として、HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術(RFA)を導入し、早期乳癌の一部に対しても低侵襲手術を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。

教育面では、高橋・関を中心とした教育を若手医師に受け、放射線診断科との合同カンファレンスにより画像診断能力の向上を図っています。研究活動では、永山・横江がセンターとして、慶應義塾大学医学部外科学(乳腺)教授として、HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術(RFA)を導入し、早期乳癌の一部に対しても低侵襲手術を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。

教育面では、高橋・関を中心とした教育を若手医師に受け、放射線診断科との合同カンファレンスにより画像診断能力の向上を図っています。研究活動では、永山・横江がセンターとして、慶應義塾大学医学部外科学(乳腺)教授として、HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術(RFA)を導入し、早期乳癌の一部に対しても低侵襲手術を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。

世田谷血管クリニック

開業



松原 健太郎(79回)



初診外来(午前)

一般・消化器外科

腫瘍センター

北川雄光

長谷川康

阿部雄太

岡林剛史

川久保博文

尾原秀明

藤野明浩

加藤源俊

木村洋平

火管

月血管

●印教授

○印診療部長

○印診療副部長

●印

●印